

# 児童図書研究室ニュース

2006.1.26

## 福島県立図書館

<http://www.library.fks.ed.jp>

No.59

### 平成17年度 子ども読書活動推進講座 報告

11月25日(金)福島県立美術館講堂において標記の講座が開催されました。参加者は、171名。

今年度の講座は「子どもの本を知り、子どもが自主的に本に親しむ読書環境について考える」をメインテーマに、講座では「子どもたちにとって魅力ある作品」を取り上げました。今回の講座では、「子どもの『読書環境』について考えてみませんか?」として、お二人の講師による講演と対談を伺いました。

#### 【講演1】本をとおして子どもとつきあう

(講師:宮川健郎氏 明星大学教授)

宮川健郎氏は、日本児童文学が専門で児童文学の観点から国語科学習材についても発言を続けていらっしゃいます。また、著書「本をとおして子どもとつきあう」(日本標準)では読み聞かせの楽しさを紹介されています。

今回の講演では、子どもの本への大人の関わりをお話いただきました。特に、ご自身の体験として、絵本から子どもが遊びを生み出す様子や親子で同じ本の世界を共有していると感じた出来事を、本の紹介を交えて具体的に楽しくお話ししたり、「みみをすます」(谷川俊太郎)の詩等を例に文学の力を証明しながら文学を読む意味を伝えていただき、実感を持って理解することができました。概要は次のとおりです。

- ・子どもの本における「顧客の二重性(買うのは大人、読むのは子ども)」がいろんな問題を起こす原因となっている。大人は本と子どもを積極的に結びつけたり、引き離したりする。これは、大人がもつ権力であり、大人们たちが読書環境そのものである。
- ・身近な大人は子どもの本の「媒介者」として、「大人の届けたい思い」と「子どもの受け取り方」のずれが新しいものに転化していくよう手助けして欲しい。
- ・親としての経験から、本そのものではなく「本を通して伝えられたもの」が、子どもと親の間で共有の財産になり、見えない財産が積み上げられていくと感じた。
- ・子どもの遊びを見て、意味のない言葉の大切さを考えるきっかけとなった。意味のない言葉は自分の中で風の通り道をつくる。
- ・文学を読む意味は何か。自分を解放し、現実の世界の自分の奥行きを創ってくれる。見過ごしているものを考えることで、生きることに慣れている自分にストップをかける。自分が生きている世界を改めて見直す仕掛けが文学ではないかと考えている。また、言葉によって自分が支えられる。そして、物語は順序立てて考える論理性を育てくれる。

#### 【講演2】文字のない絵本

(講師:宮川ひろ氏 児童文学者)

宮川ひろ氏は、教員の経験を生かして多数の児童文学作品を発表しています。これまでに、赤い鳥文学賞、新美南吉児童文学賞、日本児童文学者協会賞等を受賞されており、今年度は「きょうはいい日だね」(HP研究所)で、ひろすけ童話賞を受賞されています。

ご自身の幼い頃は身近に本のない環境だったが、村の暮らしのなかで心をふるわせてくれたお兄さんの言葉や陽炎の思い出や支度部屋のお嫁さんの姿などが、自分にとっての絵本になったこと。いろいろ端でその日あった出来事を語り合う家庭に育ち、「いい話だからもう一度板の間で話してくれ。」と父に褒められるのがうれしくて、いい話を探して話したこと、それがいつしか原稿用紙となり児童文学を書くようになったこと等、作家になった背景を、穏やかな優しい声でお話くださいました。

また、「わかがえりのみず」「じさまのとうじ」等の語りに、会場は昔話の世界へと誘われ、聞くことの楽しさを存分に味わう貴重な時間となりました。参加した方からは、「子どもたちにもぜひ聞かせたかった」との感想が寄せられました。

なお、子ども時代の思い出を孫に語るという設定で描かれた「文字のない絵本」(永田治子:絵 ポプラ社)と、珠玉の言葉が胸を打つエッセイ「母からゆづられた前かけ」(文溪堂)でも知ることができます。

#### 【対談】「読書環境を考える

- 親・子・作家・研究者の立場から

初の親子対談は、会場からの質問に答えていただく形で行われ、和やかな雰囲気の中、声を通して聞く力を育てる大切さや、作家となった母を陰で支えていた健郎さんの子ども時代のエピソード等を伺いました。

#### イベント情報

##### 彫刻家が描く 佐藤忠良の絵本原画

絵本「おおきなかぶ」の画家としても知られています。

期間:2006年1月21日(土)~3月26日(日)

9:30~17:00 月曜休館

会場:宮城県美術館 展示室3・4

問合:宮城県美術館 TEL022-221-2111

[ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室]

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

E-mail [kodomo@library.fks.ed.jp](mailto:kodomo@library.fks.ed.jp)